

月探査試験機 大樹で飛行実験



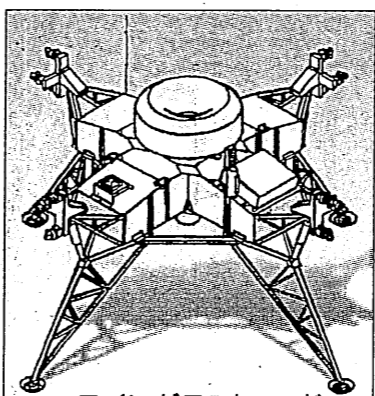
発行所
十勝毎日新聞社
©十勝毎日新聞社 2000
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
TEL(代表)0155-22-2121
編集 0155-22-2121
広告 0155-23-2323
総務 販売 0155-24-2222
広尾支局 01558-2-4111
池田支局 01557-2-2367
本別支局 01562-2-2618
新得支局 01566-4-5524
札幌支社 011-261-2161
東京支社 03-3544-1365

宇宙開発事業団 2004年打ち上げ計画

軟着陸技術の確立を目指す

来月から航空公園

【大樹＝小林祐己】二〇〇四年に日本初の大型月探査機「セレーネ」の打ち上げを計画する宇宙開発事業団(NASDA)は来月から、月面軟着陸技術の確立を目指す。試験機の飛行実験を大樹町の町多目的航空公園で行うことを決めた。二十八日午後、開かれる科学技術庁の宇宙開発委員会で報告される。今回の実験は六月までの予定だが、その後の開発過程での実験誘致も期待されている。



フライングテストベッド (FTB) 外観図

- ★全長(全幅):3460mm
- ★全高:2100mm(突起含まず)
- ★全備質量:400kg
- ★空虚質量:302kg
- ★ペイロード質量:約50kg
- ★燃料(最大):60kg
- ★最小推重比:1.10
- ★飛行時間:5分(最大、標準大気状態)
- ★到達高度:約1000m

計画では二〇〇四年にH-IIAロケットで探査機を打ち上げ、周回衛星で二年間の月面観測を行った後、月面軟着陸を試みる。事業団と文部省宇宙科学研究所(ISA)の共同研究で、アメリカがアポロ計画で得たデータを上回る広範囲、精密なデータが得られると期待されている。大樹町での実験は月面軟着陸技術の確立が目的で、ジェットエンジンによる垂直上昇・降下飛行が出来る「フライング・テスト・ベッド(FTB)」と呼ばれる試験機の機能・性能の確認を行う。二一五月に製造した富士重工と事業団がクレーンでつり下げた状態で性能を確認。五、六月にヘリコプターつり下げ飛行を経て、高度約七〇〇mまで上昇するフリーフライト試験を行う予定。実験は町美成地区の町多

主力実験地へ期待

宇宙開発 歓迎ムードの大樹

【大樹＝小林祐己】宇宙開発事業団の月面軟着陸研究用FTB試験が行われる大樹町は、初の事業団中心の実験に「同公園利用の新たな動き」を歓迎している。二十四、二十五日開かれた地元説明会でも不安視する人はなく、日本の宇宙開発における主力実験地の一つとして利用が進むことへの期待が高まっている。長年、宇宙基地・実験誘致に取り組んできた伏見悦夫町長は「今回の実験をスナップに将来、宇宙関連企業などの進出があればうれしい。幸い地元も好意的で心強い。今後このような実験が多々行われると思うので、ぜひ成功してほしい。国から『宇宙に向けた実験場』という位置付けをもらえれば」と期待を高めている。

地権者の一人で説明会に参加した大石富一町議は「農業としては農地が取られるという観点もあるが、航空産業が町に定着して商店街など町の活性化につながる」と歓迎。多目的航空公園がある美成行政区の小川義二区長も「地元の方々は協力的。今回に関しては特に不安な点もない」と話している。

説明会には、事業団の板垣春昭・月利用推進研究室主任開発部長ら五人が来町。実験の概要とともに、安全対策について説明。FTBにパラシュートを装備し、着陸可能性のある半径一キロの区域を実験中は立ち入り制限すること、万一の墜落に備えて消防車を待

機、オイルファンズなどの準備をすることを説明。もし民有地に被害が出た場合は事業団が補償をする方針を示した。

参加町民からは、六月末にも始まる採草作業と実験が重ならないか質問が出たが、実験時期と個々の農家の予定を町が調整することになった。「実験をやっていたら地元の地域発展の一步、頑張っている」と参加者から意見が出るなど、説明会は歓迎ムードで終了した。